

現実見当識訓練（新技術なし）

文献ID	筆頭著者	発表雑誌	発表年	研究デザイン	目的	対象者	対象数	評価法・項目	介入・暴露	介入の頻度	介入の期間	対照療法	主要評価項目	結果	結論
25588408	Camargo CH	Am J Alzheimers Dis Other Dement.	2015	非盲検非ランダム化比較試験	ACHEIを内服中の軽度・中等度AD患者に対するROの効果を検証する	ブラジルの大学病院の神経内科外来に通院中のAD患者。3か月以上ドネペジルを内服し、MMSE14～27点。	割付RO群7名対照群7名	CERAD Verbal fluency Naming test MMSE Word list learning Constructional praxis Word list recall Word list recognition Constructional praxis recall CDT	人、時間、場所の見当識、個人の興味関心に関わる会話、社会交流促進	週1回、30～60分	6か月間	通常治療（薬物療法のみ）	CERADスコア MMSE CDT	介入前後で、CERADスコアは介入群のみで有意に改善。MMSEやCDTは改善傾向であったが有意差までは至らず。	ROを長期に行うことで前頭葉機能を改善する可能性がある。
37474259	Kume Y	Psychogeriatrics.	2023	クラスターランダム化試験	ROを含めた多コンポーネントのプログラムの、身体・認知・心理状況に及ぼす効果を検証する	地域で独立して暮らす65歳以上の高齢者	割付RO群42名対照群150名	word list memory TMT-A TMT-B Symbol Digit Substitution Task grip strength usual walking speed the five-repetition sit-to-stand test GDS-15	多コンポーネントの運動。コアは30分間の運動とROをもとにしたプログラム。軽運動をしながら居住区の県歌や名所の話題を5～6名の少人数で話す。	2週間に1度、90分	3か月間	多コンポーネントの運動。コアは30分間の運動と認知的タスクを行うDual-taskの要素。	word list memory TMT-A TMT-B Symbol Digit Substitution Task grip strength usual walking speed the five-repetition sit-to-stand test GDS-15	Pre-Post比較で、Word list memory, SDST, Sit-to-Stand timeは両群で有意に改善。両群の群間差はなかった。	ROを取り入れた多コンポーネントの運動プログラムは、認知タスクを取り入れたものと同様の効果があった。最終評価はRO30例、対照31例とドロップアウトが極めて多い。2週間に1度の介入に効果があるかは疑問がある。
26370064	Menna LF	Psychogeriatrics.	2016	非盲検非ランダム化比較試験	犬の補助によるROの効果を検証する	イタリアのデイケアセンターに通所する軽度～中等度のADの人	割付ペット+RO群20名RO群20名対照群10名	MMSE GDS	時間、場所の見当識訓練。記憶や注意、言語の訓練も含まれる。	週1回、45分	6か月間	介入無し（通常の活動と思われる）	MMSE GDS	介入前後で、RO群ではMMSE、GDS共に有意に改善したが、対照群では有意差はなかった。しかし介入後のMMSEとGDSの群間比較では、RO群と対照群とで有意な差はなかった。（なお、ペット+RO群は全てにおいて有意に改善していた）	ROはMMSE、GDSを改善させる可能性がある。しかしRO群、対照群ともドロップアウト30%と高い。
	Panerai S	Am J Occup Ther.	2021	非盲検非ランダム化比較試験	電話RO（T-ROT）の認知機能、気分、精神症状への効果を検証する	神経認知障害の人	割付T-ROT群14名対照群13名	Cornell Scale for Depression Hamilton rating scale for depression NPI-Q (Frequency) NPI-Q (Severity) 電話MMSE	電話によるROT（セッション毎に日付、祝日や記念日、性格、外見、などテーマを決めて話し合う。感情的なサポートも行う）	週3回、50～60分	4週間（10セッション）	介入無し（介入参加に同意せず、アセスメントのみ行なった人が対照群）	Cornell Scale for Depression Hamilton rating scale for depression NPI-Q (Frequency) NPI-Q (Severity) 電話MMSE	介入前後で、全ての項目においてT-ROT群は対照群よりも有意に改善を示した。	T-ROTと感情的支援は認知機能、精神症状に効果的な可能性がある。
29960104	Chiu HY	Int J Nurs Stud.	2018	SR/MA	ROが認知機能や抑うつ・精神症状に効果があるか検証する	認知症の人	認知機能11本行動症状5本うつ症状5本	MMSE GDS NPIなど	4本 クラスルーム RO 1本 クラスルーム + 24時間 RO 6本 RO + 他種介入（回想、認知機能、再動機づけなど）	週1回から毎日30～90分	4～25.7週	通常ケア、ドネペジル内服、認知機能訓練、運動など	MMSE GDS NPIなど	ROは認知機能を有意に改善するが、行動症状やうつ症状への有意な効果はない。	ROは認知機能を有意に改善するが、行動症状やうつ症状への有意な効果はなかった。しかしながら、より多くの研究により確認することが望ましい。